

## 朝の運動会練習風景

帯西では、運動会だから特別時間を組んで、たくさん練習するということはしていません。各学年の練習は、通常の日課で割り振られた体育の時間に練習をしています。全体練習も3回だけしかありませんが、それは限りある時間の中で、ベストを尽くそうという考え方だからです。応援団も朝から練習



応援の仕方を1年生に教える応援団員

をしています。そこで細かい動きなどを確認する必要は出てくるのですが、その課題を解消するために、応援団の子供たちが朝自習の時間に分担して、各学級に出向き、拍手の仕方や声の出し方などを丁寧に説明しています。このような子供たちの自主的な動きが、「運動会は自分たちが創る!」という意識に変わっていくのだと思います。

運動会という大きな行事の裏には、子供たち一人一人の努力があって、成り立っています。もちろん、そこにはそっと寄り添っている、教職員の姿があるのです。

## 命を守るために

子供たちが楽しみにしている水泳の授業が始まります。それに先立って、本校では心肺蘇生法講習会を、昨日20日(月)に校内研修の時間に職員が学びました。消防署の方々の指導の下、心肺蘇生法訓練用のダミー人形を使用し、胸骨圧迫の正しいやり方や、AEDの使用方法など真剣に参加することができました。



我が国では119番通報してから救急車が現場に到着するまで全国平均8分かかり、救急隊が処置をするには、さらに数分を要します。講習会では、救急車を待つ間に、教職員が子供たちの命を守ることができるよう、一人一人が技術の習得に励みました。

また、アレルギーをもつ児童がアナフィラキシーショックを起こした場合に、どのような対応をとるか職員全員で考え、実際の動きや手順を確認しました。シュミレーションをしてみると、いざというときにどこで戸惑うのか、どのような体制を整えておくべきかが分かり、今後の環境整備の方針を定めることができました。最後には、今年2月福岡のみやま市で給食時間中に起きた窒息事故を踏まえ、実際に窒息が起こった場合の対応を教えてくださいました。

そうした事故が起こらないことが大事ですが、まさかの時の備えとして、今後も安全指導、安全対策を油断なく行なっていきたいと思います。